

## 軽米町百人委員会平成 28 年度第 3 回しごと部会議事録

○開催日時：平成 28 年 11 月 18 日（金）午後 6 時 35 分～午後 7 時 40 分

○開催場所：軽米町役場庁舎 2 階会議室

○出席者

委員：15 人中 7 人出席（円舘勝弘、山根京二、舘下稲子、紫葉貞子、下谷地忠一、日向日出男、野林秀雄）

事務局：産業振興課 高田、小林、坂本、畑中

税務会計課 山田

地域整備課 新井田

再エネ推進室 平

総務課 日山 梅木 小笠原 下谷地

○開会

（産業振興課長）みなさん大変ご苦労さまです。お疲れのところお集まりいただきましてありがとうございます。百人委員会の第 3 回のしごと部会ということで、今日は提言の取りまとめということで皆様にご参集いただきました。一応皆様方には案内の文書と一緒に前回の議事録、第 1 回目、第 2 回目に皆様から出た主な内容をまとめて、提言の案と言う形で一応お示ししてご検討いただいて、今日は忌憚のないご意見をお伺いしたいということで始めさせていただきたいと思ひます。最初に部会長さんからご挨拶をお願いします。

○部会長あいさつ

（部会長）おぼんでございます。お疲れのところ大変ご苦労さまでございます。今回は第 3 回ということでありますけども、前回は台風の直撃を受けた直後でございまして、なかなかみなさん出席率が低かったわけですけども、今日もなんか少ないなと思ひてましたけども、前回出席して下さった方々が多いみたいですので、前回のことも踏まえて、今日は町長への提言ということでみなさんから取りまとめていただければと思ひております。よろしくをお願いします。

（産業振興課長）ありがとうございます。それでは、さっそく協議の方に入らせていただきますけども、私の方から概要を説明してもよろしいでしょうか。

## ○協議

(産業振興課長) お手元に今日のしごと部会の会議の次第の他に、めくっていただきますと、第1回目の部会と言うことでテーマを決めましょうと、しごと部会では、「若者のしごと」ということでテーマを決定しました。その会議の際に、第1回部会としましてはみなさんからご意見をいただきながら、現状と課題、これまでの意見ということで、①から⑭まで。まず①は、人口減少・少子高齢化の現象は軽米町も同様である。しかし、これからの町づくりはやはり若者が中心になる、ということで書いてあります。③ですけれども、今私たちが何をすべきか、ということで、若者の前に、今いる人たちが、自分たちが何をすべきかを考えて、若者たちが反応してきたときにどうやって応援するか。今いる人たちが魅力ある軽米の仕事を見せてあげる。そのことに若者が意見を述べてきたとき、私たちはどうすればよいのか。「若者のしごと」のテーマは良いが、私たちのこれからの対応も大事な問題になる、という意見が出されました。⑦は建設業の話になりますけれども、行政の仕事がないという他に、一般の仕事も町内にはないということで、町外での仕事がほとんど80%以上あるという厳しい現実がある、という意見をいただきました。⑧ですけれども、同じように建設業の方ですけれども、一年を通じてコンスタントに仕事があればいいけども、一定の仕事が継続してないものですから、人事についても安定していないということです。⑨では、アンケートをいただくということで、仕事にはいろんな形があっっているいろんな人があるんですけども、私たち自身、または別の視点で、要するに中学生とか高校生の目線でどう考えているのか、ということも聞いたらいいのではないかとということで、よそからの目線も必要ではないかとということで、子どもたちへのアンケートが必要ではないか、という話がありました。関連しまして⑬では、若者たち子どもたちの仕事のアンケートもいいんですけども、採用する側でどのような考え方をしているのか、企業からのアンケートを取れないものだろうかということで、これは相反すると言いますか、相対的にはすごく大切なことなんですけれども、一方通行だけじゃなくて、仕事をする側、仕事をする人を雇う側両方のアンケートが必要ではないかという意見が出てきました。2回目の話の時もあったんですけども、産直施設の話になりますけれども、産直施設の中身としましては、実際に農産物を作る人が購買する人との直接の交流の場があるのではないかと話。農産物を生産するには、数は多くなくてもいいけども自分のやれる範囲内で、この中には定年と言う話もあったんですが、一般の企業であれば通常60歳が定年なんですけども、農業には定年がない。定年はないんですけども、一般の会社で定年になって軽米に戻ってきた方がい

るのであれば、やれる範囲内のところから手をつけて、例えば産直施設に必要なものを出して、収穫する喜びと販売する喜びと、購買する人たちとの交流といいますか、そういう意味ですごく大切な施設じゃないのかと。いろいろ生きがいも出てくるのではないかなという話もありましたし、大変失礼ですけども、昔から70馬力80馬力と言いましたけども、70馬力80馬力の方々が持っている農業のノウハウ、そしていいものを作るノウハウ、それらを実際作って販売する人たちの喜びもここには集結するのではないかなということで、産直施設の充実が必要だよ、というご意見がありました。軽米のまちなかに産直施設ができないものかというご意見もありました。中には、太陽光発電で雇用が生まれるのかという質問に対して、再エネ推進室長の方から、今はまだはっきりしませんけども、施設の維持管理等には雇用が生まれるということで、工事中も町内の業者さんを使っている面でご協力願いたいというお話がございました。続きまして、第2回部会の方になります。第2回部会では、現状と課題ということで①から⑩まであるんですが、⑤としまして、町内で企業誘致企業誘致と言ってるんですけども、軽米町で企業誘致をするのではなくて、軽米町に住んで近隣の市町村に仕事に行く。要するに、町で子育て等をして、あるいは居住して、仕事場を町外の近くに設けると。そのためには、軽米の子育て支援制度とか若者の定住住宅の建設とか、他の市町村と比べて有利なと言えばあれですけども、そういうふうなことを発信することが必要ではないか。また、そういうことがあれば、例えば、今は町内にいなくて近隣の市町村に住所を置いて生活している子どもさん等があれば、町内もいいよということで軽米に戻ってくる人も出てくるのではないかなということで、企業誘致をするのではなくて、軽米に住んで軽米から近隣の市町村に働きに出る。例えば、八戸市や二戸市等であれば企業もたくさんあるし、それぞれ自分たちが帰ってきて仕事も見つけやすくいいのでは。確かに通勤とかそういうところではかなり苦労はするんだけども、そういうふうなインフラの整備はどうなのかなというご意見もありました。そういう意見もありましたので、町の有利な制度はなんなのかという話から出まして、⑥⑦⑧と町内の軽米町の医療費制度とか保育料とか幼稚園の軽減措置について、担当の方から説明がありました。⑧としては、通勤圏内として軽米が生きていくには交通のインフラが必要ではないか。あるいは除雪対策も必要ではないのか、ということと、情報発信が少ないということで、町内の観光スポット、あるいは町民の憩いの場としては、ミル・みるハウス周辺の充実をしてはどうかという意見が出されました。花壇についてもでしたし、トイレについては24時間にできないものなのかなということで、町内に住ん

でもいいけども子どもと一緒に遊べる施設がないものなのか、ということです。⑫とか⑬につきましては、確かに町内には農業で頑張っている若い人たちがいる。議会報でも取り上げてますけども、若い農業者の方々を紹介する記事があると。かなりこれらはいいいことなので、そういうことに触れる機会、あるいはそういう機会を多く作って、皆様にお知らせした方がいいのではないかとということで、それに関連しまして、たばこの青年部会とか野菜の生産部会とか花卉の生産部会、畜産関係もそうですけども、それらに取り組んでいる若い人たちを少しずつでも紹介していけば、それに刺激を受ける人もいるのではないのか。あるいはそういう生き方もできるんだということを紹介する。要するに広報ですね、それらも必要ではないかという話がありました。⑭はさっきお話ししましたけども、通常の会社であれば60歳で定年になって退職するんですが、たまたま自分の家で農業をやっている場合には、自分に見合った農業というのをできないものなのか。それらはその人の考え方からいくかもわかりませんが、農業には定年がないわけですので、自分なりの長い目で見た生活設計の中で、楽しんでやるという考え方から見て、それがお金になるというのであればなおかつ面白いのではないか。そういう姿を子どもたち、要は若い人たちに見せることも必要ではないか、ということでした。⑯は私の方からちょっと付け加えたことなんですけども、軽米町で取り組んでいる基幹産業である葉たばこ・畜産・養鶏・野菜・花卉・ホップ・飼料用米など、これは軽米町の基幹産業。それから軽米町の特産品って言うてるんですけども、これらを何か役場でやってるのかという話も出ました。雑穀雑穀というけども、雑穀の何か生産補償とか各補助制度をやってるのかということで、少しはやってますけども、特産品の生産奨励と生産者への価格補填制度が必要ではないか。なんのための特産品だ、特産品という名前を使うならそれなりのことを町としても取り組んでは、という話が出ました。いろんなお話が出て大体まとめるとこういう感じかなと思います。それらを受けて次の百人委員会のしごと部会の町長への提言ということで、次のページになりますけども、テーマが「若者のしごと」ということで、大きい1番としまして、「今私たちが何をすべきか」ということで①～③。大きな2番としまして、「多角的・多方面な視点をもって」ということで①～④まで。アンケートも入っております。②は若者を外に出さないということではなく、若者を外から引っ張ってこれる体制の整備ということも、多方面な視点の違いと言いますかそういう感じ。次裏面になりますと、若い人で農業、農業だけでなくいいと思いますけども、楽しく働いている姿を広報などで紹介することも必要ではないのか。そうすると若い人の刺激になるのでは

ないか、ということです。大きい3番としまして、「行政に検討していただくもの」。私もそういう仕事をしてますので行政的ではなく、「検討していただくもの」と表現しましたが、誘致企業ではなくて軽米町から近隣の市町村へ通勤することで、「若者のしごと」を町内に求めるのではなくて町外で仕事をし、生活の場は軽米町にする。生活の場を軽米町にすることによって、町内の各種行事等に積極的に参加していただき、軽米町の活性化に寄与していただけるのではないかと、ということで、その方策としましては、子育て日本一のまちを目指す軽米町の各種施策のアピール、それから子どもの医療費等に関わる各種医療制度の助成制度、保育料とか幼稚園の経費軽減など、もう一つは、若者の定住促進住宅の建設などによって魅力を発信して、外から軽米町に若者を呼ぶ。それから②は建設業の話なんですけども、年間を通じて平均した工事発注ができないものか。③としましては、町外から人を呼び込むためには軽米の核施設が必要ではないかということで、今のミル・みるハウスや産直施設の充実を求めるということで、これはいろんな意見が出ました。ハード面だけではなく経営的なソフトの面でも欠けてるのではないかなという意見もたくさん出ましたので、ハードとソフト両面で少し検討できないものか。ハード面としましては、トイレの24時間開放とか大型バスが出入りできるようにとか、もう一つは憩いの場、少し子どもたちが遊べる場という意味ですが、そういう感じで整備したらどうかということです。それから、④は産直施設が町内には大きくは3つありますけども、ノーソンの方は市日、10日に1回しかやっていないんですが、まちなかにも必要ではないかという意見もありましたので、産直施設の充実にも寄与してもいいのではないかという話です。⑤はこれから重要になってくると思われる集落営農の推進です。⑥は先ほどもお話ししましたが、軽米町の基幹産業の振興、それから特産品の振興は、生産奨励とか各種補填制度などの充実はできないものかということで、全体的なまとめとしまして、町として取り組んでいる姿を示すことも、「若者のしごと」の後押しになるのではないかと、ということで検討してもらいたいということで、一応皆様の提言をもとにして案としてまとめてみました。あんまり私がお話すればあれですから、みなさんからご自由な意見をいただいて、この案を修正しながら考えていきたいと思っています。私の方からは資料の説明ということで、以上です。あとは部会長さんの方から、ちょっと時間をかけてもいいと思いますので、よろしくお願ひします。

(部会長) しごと部会としての提言ということで、今説明してもらいましたけども、我々も話し合ったことを忘れかけているところもありますけども、この中で文章に足したいなとか、また違う何か、これは申し立てておきた

いというようなものがありましたらみなさんからお願いします。これで丸々納得でしょうか。これの中にはないんですけども、前に言ってる広報なんか載せるという話はどうすれば、これに足せばいいのか、そういうのがあってもいいのかなと思いましたがけれども。

(産業振興課長) かなりその話も出ましたので、案の中の2枚目の裏の一番上に載せてました。今議会報では、仕事だけじゃなくて家族の紹介とかそういう紹介をしてますけども、広報などでもそのように取り上げてもいいのではないかなと。広報は毎月ですので12回取り上げればもうネタがなくなるので、今そのネタ切れしてる時期じゃないのかなと思ってましたので、それらもできるんじゃないかということで載せてました。

(部会長) 実行できる感じだということ。

(産業振興課長) そうですね、一番取っ付きやすいんじゃないかなと思います。

(部会長) 特にみなさん何かこう気づいた点がございましたら意見をお願いします。と言って待っててもあれだから(委員1)から何かないかな。

(委員1) 私も同じですけど、自分の子どもに農家を継がせたいなと思ってますけど、まだ外に出て働いてますけど、自分が見せる農業、ここにも書いてありますけども、今60になってやめるのではなく、先に向かった姿勢を見せるようにやっていければなと思ってます。あとは若者が魅力あるように、話し合いの中でも出てきてましたが、若者を集める場所づくりも考えていければいいのかなと思っております。

(部会長) (委員2)はどうでしょう。

(委員2) 確かに住居は軽米で仕事先は他の市町村というのは、今うちの方は、部落の3分の2ぐらいは町外に通勤してるんですけども、若い人ってあんまりいないんですよ。中には専業農家でやってる人もおりますけども、軽米町にもさまざまな仕事があればいいと思うんですけどどうでしょうか。なかなか難しいですね。

(部会長) 確かに町内にというところを求めるのではなくとは言っていましたけどもね、当然町内にも求めるべきではありますので、まあ今の段階は職種が少ないということがありますので。

(産業振興課長) すいません、それを書いてませんでした。町内の仕事というものもありきだと思ってましたので、書いてなかったのそこらへんも必要ですね。

(部会長) (委員3)は何かありませんか。

(委員3) 前にこれをいただいて全部読んでみたら同じようなことですが、これを見ればああそうだなというところもあるし、自分らを見て子どもが継げるような、(委員1)がおっしゃったような形になれば一番いいの

かなと思うし、そのお仕事でなくても先ほどからお話ししております、生活の場を軽米町に置いて軽米町の人口を…、そのうちにみんなでお話ししたような、通勤しながらもこういうところもあるんだなと感じる人がいれば、何人かは仕事ができるというか、活気のあるまちにできるのかなと思ったりもしますし、制度の方ですけども、私も知らなかった制度がかなり軽米町では進んでるんだなということを、自分も勉強になりましたので、子どもの保育に関してのすごく優位な部分とか、病院代とかの経費とかの面でもすごく軽米町は進んでるんだなと、私自身もそういうことを感じましたので、そういうことをどんどん知っていただければ、いくらかは活気が出てくるのかなという感じをこれを読みながらすごく感じていました。今自分のやっている仕事に関して子どもらが考えてくれて見てもらえれば、全然心配することもないのになと思っていました。

(部会長) ありがとうございます。確かに前回の話の中で、医療制度とか補助制度とかいろいろ話を…我々もほとんど知りませんでしたけども、果たしてそれがちゃんとみんなに行き渡っているのかという話もありまして、それはちゃんとやっていますという話でしたけども、やっぱりその点については、私らが知らないということはみんなも知らないんじゃないかなと思うんですよ。だから、広報か何かに、「ご存知ですか？」みたいな欄でわかりやすくいろんなことを設ける欄を作って、誰が見ても読みやすくわかるような方法をとってもらえれば、みなさんに軽米はこういう利点があるんだよということをアピールするような、見やすいわかりやすい欄でも。すべてのこと、別にこのことだけでなく、そういうのもやってくれたらもっとみんなが理解してくれるんじゃないかなと思います。

(委員3) 何件かは広報か議会報で、「軽米町に住んでみて」というところがあって、何人かは私も見ましたけども、やっぱり住んでみていいなと思う人がいるんだなということはすごく感じました。

(委員1) ああいうふうな感じで継続して。

(部会長) ああいうのだと、面倒くさい今年度の予算がとかって見もしない。やっぱりああいうふうに枠で取り上げられれば、ぱっとみんな読むんだよな。そういう中身なんだよな。

(委員3) 出生とかお悔みの欄を見る前に、写真が載ったり楽しい軽米とあってあれば、そこが目に入りますもんね。

(委員1) ぱっと開いて読むところと読まないところがある。

(委員3) なんかすごくああいうのって若い人にとっては、ああ、いい思ってくれてるんだという感じになりますし、自分も勉強になります。

(部会長) そのへんはまずそういう考え方でこちらから提言するというところで、

もっと上手に発信してくれというような考え方で。

(産業振興課長) それは追加しますので、内容的なものとして。

(部会長) (委員4) はどうでしょう。

(委員4) 先ほどおっしゃったように、軽米からけっこうよそに外出してる人が実に多いということなんですけども、週末だけはできるだけ地元に残れるようなレクリエーション施設とか、スポーツ施設、現在確かに立派な施設はあるんですが、少人数で使えるような施設とはなっていないと思うんですよね。テニスコート、野球場、そこらへんに関してはですね、ただ囲いがあるというぐらいでいいと思うんですけど、そういうふうな施設と、汗をかいたときにお風呂とまではいかないですけども、シャワーぐらい浴びられるような、そうすれば地元の人だけでなく、よその人たちもそういう方たちが見えるんじゃないかなと思います。今の施設ではとても人を呼べるような、それも少人数の人を呼べるような施設ではないと思いますので、そこらへんをまず充実させた方がいいんじゃないかな。そして週末の人口だけでも軽米町を多くするという、そういう方法をとるとかいかがでしょうか。あと仕事…どうしても普段仕事もそうなんですけども、どうしても目立たないと言ったらあれなんですけど、我々が本当は宣伝していかなくちゃならないんでしょうけども、軽米町には実は、アクセサリーを作る人とか藁人形を作ったりとか、木でいろんな遊具とかを作る人とか、ほうきとか立派なのを作る人とか、とりあえずそういう人もいるよということ、そういったことも含めて紹介していただくというのはいかがでしょうか。そういう数少ない人たちの商品を紹介する場所、こう言うのはなんですけど、ミル・みるハウス、産業開発は商品の数が少ないので、常時置いておけるかというところではないんですよね。単発的な取引もできるような場所だけ提供して、年に1回ぐらいそういうことをやるとか、そういう人たちのためにそういう場所を作っただけであればと思います。まあバザーみたいな雰囲気でもいいんでしょうけども。どうですかね、ちょっと苦しいんですが。

(産業振興課) 頑張っってちょっとまとめてみます。

(部会長) まあ実際そういう方々がいるっていうのはあんまり、我々も付き合いがないと。百姓やってる人とばかり付き合ってるかどうかという人があるのか全然わかってないから。何かそういう形、そういう発表の場みたいなものがあつた方がいい。なんにもなくて活気がないとか思わなくなってしまつて。

(委員4) 何もないと言われることが多くなつてるけど、実はそういう方たちがいるということを紹介していただきたい。

(委員 5) 何か作って文化祭なんかで出してはいいんですか。何か作ったのをお披露目する場所、文化祭か何かでやってると思ったけど。

(委員 4) 実際の販売の方に回せるかどうか。前にバザーをやったときにそれを持ってきた人もいましたので、売る意思はあったということですよ。

(部会長) では(委員 6)は何か。

(委員 6) 行政に検討していただくもので、検討してもらいたいことが1個だけあって、ソーラーのこととか今十文字でやっているバイオマスのエネルギーを、どうにか仕事に還元できるようなシステムがあればいいと思います。というのは、せっかく軽米町でそういうのをやってますということになっても、自分の中に還元されているという…役場の人と話をしたときに、まだまだそういう段階ではないだろうという話はされたことがあったんですけど、自分は農業に限ったことなんですけど、それが何かしらで入ってくれば仕事もやりやすくなるし、次につなげる仕事づくりとかそういうのもできてくるんじゃないかなと思います。軽米町にソーラーとかバイオマスとか、自然エネルギーというものがあるんだったら、それが仕事に還元できるようなシステムがあればいいなと思います。あと軽米町で仕事をしている人ってすごい儲かってる人がいないので、そこをどうにかしていかないと後には続かないだろうなと。

(部会長) でっかくやれって言われてもなかなか。

(委員 6) そうなんだけど、やっぱりこれから仕事をし始めようとするんだしたら、儲かってないことで仕事してもしょうがないと思う。それを喋られてもどうにもできないよというのが本音だろうけど。自分もそうですしね。

(部会長) やっぱり目標があれば、前例があればそれに向かって、希望というのがあれば。若い人間が集まる機会というのはどういう場が一番あるのかな。

(委員 1) 4H?

(部会長) 4Hと言ってもみんな入ってるわけじゃ、何人くらいいるの?

(委員 6) 軽米だと15いくかいかないかぐらいだったと思う。

(部会長) なんかそういうふうなのが、全体が集まれるようなのがあれば。

(委員 6) あとはKFCっていう別のグループもあって、ばらばらでやってたりはする。

(部会長) 何かの機会があればな。

(委員 1) まとまってというのはないんだな。

(部会長) ばらばらだけど団体的にはなんぼかあるということだな。やっぱりそういうのも将来に向かって、これからのことをそういう人たちにも話し合ってもらえるような場があってもいいと思う。これから軽米をどうやっ

て盛り上げていくかというふうなのを、若い人だけで話し合う機会、例えば、このしごと部会ではこういう話で今やってるんだけども、どうなのかなという、今現在実際住んでいる若い人たちから集まってもらって、意見を出してもらおうような機会も必要だと思う。

(委員1) 顔は見たことがあってもどこの誰だかわからないときもある。

(部会長) 1つの団体であればみんなわかっているけど、違う団体になれば全然わからないだろうから。

(委員1) 俺たちのときのように、あっちにもこっちにも顔を出して。

(委員3) その場がいっぱいあったからね。だから自然と仕事にも、それこそ将来の自分の相手もその場で見つけるとか見つけられるとかできたのに、今は何も集まる機会もない、ないというかそれが一番ネックじゃないかな。

(部会長) 昔は必ず誰かが跡取りだとかどう考えたって必ずあったのだから。

(委員1) だから会って話をできる場があったから。あの人はこういうのをやってる、俺もやってみようとか。さっき(委員6)が言ったように、場がないから見えてこない。

(部会長) 昔のように青年部と言ったって青年部もないし。

(委員4) できれば行政にもお祭りとかそういうのも助けてほしいですね。

(委員1) そういう場があればいろんなところでね。

(委員4) 今出している山車なんかも、平均年齢からすれば65~70とか。みなさんが企画してみなさんが本当は作っていただければと思うんですけどね。

(部会長) 仕事ということじゃなくてもみんなつながるからね。全部関連するわけだから。実際、祭りと言ったって昔に比べて人は出てないし、何をやると言ったって。

(委員3) うちらが子育ての時は地区ごとにあれ、商工会の主催だったのかな。

(委員5) 持ち回りで。

(委員3) うん、持ち回りで、地区ごとに。商工会でやってたのかな。

(部会長) 商工会でやってた。

(委員3) 面白かったなと思って。

(委員5) 出たいという子どもたちが多かったから。

(委員3) 出たい出たいって言ったんだもんね。今はその子どもがいないんだもんね。

(委員5) 子どもがいないからね。

(委員3) いる人だけでも、とにかくお祭りというのは面白いよということだったり、若い人たちにも参加してもらって、テレビでもありましたっけ。お祭りに参加させてもらってその良さをわかってもらったりとかそういうのもすごくいいなと感じました。

(部会長) 祭りに参加する山車は減り、参加して歩くのも今年は神楽だけ3つ、太神楽と沢田と山内と。それから駒踊りが入って。虎舞はだめ、えんぶりはだめ、獅子踊りもだめになってるし。この分休むと復活できないんだよな。4、5年経ってしまえば。教える人がいなくなってくるし、踊った人もいなくなる。ますます軽米の祭りが見るところがなくなってくる。よそから今までけっこう南郷とかそっちの方から来てたんだよな。最近やっぱり人が来ないもんな。少ない。観光に来る人もいない。まあそっちはそっちの方の部会で話し合ってると思うけど。ここで言う話なのかどうなのかわかんないけども、やっぱりそういうところから寂れていくということでは困るんだよな。もっともっと活力をつけてもらわないと。まずこちらの方としては大体出たと思います。

(産業振興課長) そうですね。かなり難しい問題もいっぱい出たと思います。私たちが若い時は青年会がいっぱいあってけっこう集まったり飲んだりしたものだけど、今はそういう機会がないから大変なことだなと思います。4Hクラブは一応うちの方で職員が兼務で事務局…14、15人かな、継続してやっています。(委員6) も入ってましたもんね。

(委員6) 入っています。

(産業振興課長) ただ年に何回かしか集まってないもんね。あとはその人たちで何かサークルか何かでやってるんですよ。何かやってないか。

(委員6) 主な活動としては、町営牧野の肥料まきとか、要請があったときに食フェスタとかで出たりとか、あとは交流会ばかりで。

(部会長) 交流会はやった方がいいんだ。

(委員6) 何か名目をつけて集まっているような感じだから。

(委員1) 勧誘方法とかそういうのもまだ載せたことはないだろうな。

(産業振興課長) 改めてはないですね。会員の人たち自体で引っ張り合ってるような感じだと思います。ただ(委員6)は花卉の方だけでも、畜産は畜産でまた違うもんね。一緒だっけか。

(委員6) 4H入ってますよ。ただそのメンバーの中でも自分たちでモーモークラブとかそういう活動もやってたり。

(産業振興課長) 野菜の方の生産部会では何かなかったっけか。野菜の方の生産部会と言っても若者は60代50代なんだもんな。

(部会長) 野菜やってるので若いのっていないもんな。九戸にはちょっとはいるけど。九戸村にはなぜかそういうのがけっこうあるんだよな。なんというか、九戸は九戸のイメージがあるし、軽米とはまた別だなと。市町村それなりの特徴があるんだろからな。

(産業振興課長) 今回はまずうちの部会の方は15人いるんですが、15人そろ

ったことはなかったわけですが、7、8人ぐらいでしたけども、その割には、失礼な話ですけどもみなさんには好きなことを喋ってもらったからいい意見が出たし、知らないことがいっぱいあって喋ればあれですけど、我々はわかったつもりで、それをアピールしてるつもりでも全然わかってないということもあると思うし、それをいかにして伝えるか、軽米町自体がPR不足というのが現実としてあると思いますけども、そのへんを町民の方々にも知っていただく。それから、こういうことに関してはこっちに聞いてくださいよとかそういう…細部まで説明しちゃうと面倒くさくなるから、こういうことはここに聞いてくださいねとかそういう感じで、実際自分たちがそれを必要とした時でないとな身になりませんからね。人の話というのは聞いて終わりですから。実際そうなったときに聞かないものにならないので。そこらへんの情報もどうしてつたらいいかというのも、難しいとは思いますがその手はずも必要だなと感じました。

(部会長) 実際広報なんかは若い人でも年寄りでも新聞なんかより、生徒でもおそらく見たいところは見ると思うんだよな。それなりの内容で軽米のことだからね。生徒もおそらく見てるし、若い人も年寄りもみんなで見るとのだから、ああいうのをやっぱり上手に活かした方がいい。

(委員1) 息子たちも広報来てるかって聞いてくる。

(産業振興課長) たばこが今年全国で12位だったつけ、6位だったつけ、全国で。町の分の売り上げが。

(部会長) 何位というのは気にしてなかったな。

(産業振興課) 新聞に大きくついていた。

(委員1) 11位だか12位だったような。

(産業振興課長) 6億ぐらいでしたつけか、売り上げが。

(部会長) 大体6億ぐらいだ。

(産業振興課長) 6億ですよ。二戸が1番だったつけか。農産物で直に農家の人たちが集まった収入では1番ではないかなと。金額的な話をすればブローラーとか養豚なんかはケタが違うんだけど、実際働いて集計して出荷してという形で、安定して生産できる金額というのはたばこが1番じゃないかなとは感じてました。

(部会長) それはそうだ。人数が…

(委員1) 人数があるからな。

(部会長) ここから減っていかないよという考え方を持っていて、年を取ったりそういうのがあって徐々に減ってはいる。

(産業振興課長) そうは言っても軽米の本当の基幹的産業であるというのが結果として残っているんだから、俺が役場の人でなければ、町としてなんと

かご支援もしたいし、俺たちも頑張っていたきたいというのも1つのあれなのかなと。それなりにお手伝いはしているわけですが。それらを教えてないというのか、けっこうわからない人が多いんですよね。

(委員1) たばこ農家しかわからないんだ。俺たちはたばこ新聞を見てるから何番目とかわかるけど。

(産業振興課長) 全国のはなしですからね。すごいことじゃないかなと思って。そういうのも含めて…そういうのを広めるのも私の仕事かもしれないんですけども。

(部会長) いいことは載せてもらえれば。なんでも自慢できることは載せていけば。若い人がいるところは量増やせるからなんとか粘って、今平均が9反2畝ぐらいだな。一番あったときで9反4畝ぐらいまでいったけども、1戸当たりの平均が。1町歩まではいったことはないけども、けっこう軽米は個人当たりの面積は小さい方ではない。浄法寺…二戸もちょっと大きいからな。

(委員1) 高齢化になってくればやっぱり…

(部会長) ゆるくないんだもんな。まあ俺たちが頑張るべ。それしかない。

(産業振興課長) そうすると、今日出た意見をまた少し追加してこれにまとめてもよろしいでしょうか。

(各委員) はい。

(産業振興課) では今年度はそれでまとめてみたいと思いますので。一番は、若者がいないということと若者の集まる場所がないということと、若者を残すためにはどうしたらいいかというのは永遠の課題ではないかなと。ただ目の前のことだよと、それも現実だなと思ってました。あとは答えにはならないんですけども、どうしたらいいかというのはみなさんがそれぞれ模索していくしかないのかなと。こちらでできるものはやりますけども、みなさん方も自分たちの中でできるものはやる、自分自身でできるものはそれを見せていく、それしかないのかなと。ただ、いいものはいっぱいあるし、(委員4)もおっしゃいましたけども、個人のを発表する場がないというのもそうだし、発表するだけじゃなくてそれを何らかの形で、バザーのような形でもいいから販売して、そこでたまたま居合わせればそれだけでもいろいろなことを知れるのかなと。ということで、仕事とはちょっと話は違うんですけども、それらも広い意味ではあるのかなという考え方でまとめればいいのかと思ってます。そういうことでまとめてもよろしいでしょうか。

(各委員) はい。

(産業振興課長) そういうことでまとめてみますが、まとめたらみなさんに内

容についてはご案内申し上げます。その他にもまずみなさんで何かあれば。  
(部会長) 思うのは全部出尽くしたからなにもない。これ以上考える方が難しい。

(産業振興課長) では部会長さんよろしいでしょうか。

(部会長) はい。

(産業振興課長) まとまりがないような話をして申し訳ないんですが、今日いただいた意見も参考にしながらこの案に付け加えまして、部会長さんと協議しまして、町長へ部会の提言ということで全体会での発表になると思いますけども、それに向けて原稿を作りまして、作りましたら再度みなさんの方にご案内申し上げます。以上でしごと部会の3回目の会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。